

連載 私の町はどんな町⑱

春日部市

春日部市域は今から六千年程前には内牧や花積の台地を残しその周辺の低地には海が入り込んでいました。花積には全国的に有名な「花積貝塚」があります。

四世紀から八世紀の古墳時代に埼玉郡内には県内を代表する「さきたま古墳群」があり、その中でも「丸基山古墳」は墳丘の径が一〇五米、高さ十九米の日本一大きな古墳です。

鎌倉時代になると、春日部一族が台頭し、一一八七年に春日部兵衛尉が義経の軍に屈し壇ノ浦合戦で活躍し、その後畠山重忠の追討軍として大井・品河・春日部・潮田等の大井一族が参加しています。春日部氏は大井氏の一族で、一族の惣領実春の弟実高がその所領であった春日部を苗字としました。

しかし一二四七年の「宝

治合戦」で反幕府側の三浦氏に組したことにより、実景が子息三人と共に鎌倉で自害し衰退しました。

しかし南北朝時代になると、春日部実行は後醍醐軍に加わり功名を立て、天皇より上総国山辺南部(千葉県東金市)と下総国春日部郷の地頭職を安堵されています。浜川戸地区に残る八幡神社は春日部氏が鶴岡八幡宮を勧進して建造したものとわれ、春日部氏の館もこの付近にあったと伝えられています。

室町幕府が出来てからは春日部氏は力を失い、戦国期になると春日部の地は岩付太田氏の支配領域に属していました。

しかし一五九〇年豊臣秀吉の関東攻略により岩付城は落城し、春日部周辺も戦乱で荒廃したと思われる。後北条氏が滅んだ後、関東の領主となった徳川家康は、江戸周辺の守りのため岩槻城に高力清長を二万石

の大名として配置し、春日部市域もその支配下となりました。

家康は江戸を中心とした五街道の整備を進め、春日部市域にはその一つである「日光道中」が通り粕壁に宿場が置かれ交通の要地として発展していきます。日光道中は、日本橋を出て千住宿、草加宿、越谷宿を経て四番目が粕壁宿です。粕壁宿は天保十四年の家数は七七三軒で四五軒の旅籠があり、その規模は日光道中二三宿中の六番目です。

古利根川沿いの粕壁宿は米穀等の農産物を江戸へ送り、日用品や干鰯・メ粕等の肥料が江戸から送られてきた物資の集積地となり、宿内には新町橋のたもとに「上喜蔵河岸」碓山付近に「下喜蔵河岸」と呼ばれる河岸がありました。

近世中期以降になると農業技術も向上し、木綿など商品生産が盛んとなり、春日部周辺では「岩槻木綿」や「梅田ごぼう」が特産とされ、桐箱の生産も盛んで

した。現在でも春日部の特産品である桐タンス・桐小箱などの桐芸芸は、江戸時代中期から後半にかけて主に農閑余業として宿内に広まりました。伝承では三代将軍家光による日光東照宮造営に関つた大工が桐芸芸を伝えたといわれています。

江戸時代には風水害、干ばつ、地震等で被害が何度も発生しました。一七八三年には浅間山の噴火の降灰により田畑が全滅しただけでなく利根川上流から流出した噴出物で河床が上昇し洪水がおこり天明四年以降慢性的な飢饉となりました。

こうした状況を憂い住民を助けるよう奔走したのが宿名主の見川喜蔵です。喜蔵は裕福な人と共に穀物や粥等を飢えた人に施したり又古利根川が決壊したため自費で古堤の上に盛り土をして囲堤を増築しました。この堤は一名「喜蔵堤」といわれています。

(小島 次郎)



改修工事中でも、居住環境を快適に! ビソ-ゴンドラ

ゴンドラ足場システムが、集合住宅改修工事のイメージを一新します。

従来の改修工事で寄せられた居住者のみなさまの声

目の前に足場があるとうっとうしいし、誰かが入ってきてそう...



晴れた日は布団や洗濯物を干したいのに、足場があったら陽が当たらないから干せないわ...



改修工事って時間もお金もかかりそう...

ゴンドラ足場システムなら

建物全体をおおひません

- 目の前にネットがないため、工事のない日は普段と変わらない生活環境を維持。



工事中の不安も解消

- 屋上から吊り下げるタイプの足場ですので、足場を伝っての盗難やのぞきなどの不安を解消。

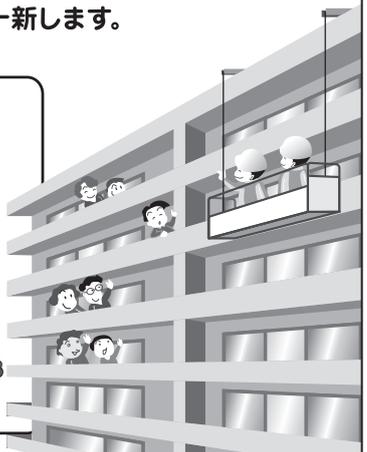


設置・解体もスピーディー

- 部材が少ないため足場設置期間が従来工法の1/3以下、全体工期の短縮にも効果的。

1/3以下

足場設置期間



日本ビソ-株式会社 www.bisoh.co.jp
レンタル埼玉営業所 〒334-0068 埼玉県川口市新堀町3-11
TEL:(048)298-8852